

事前評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成26年10月24日(金)

研究課題	雪崩発生条件の解明と観測機器の開発	
研究期間	平成27年度～29年度	
	評価項目	平均点
	研究の背景	4.2
	研究目的の妥当性	4.0
	研究内容の合理性・新規性	3.6
	研究予算の妥当性	3.6
	目的達成の可能性	3.6
	期待される研究成果	4.2
	予備研究の状況	3.8
	総合評点	3.9
<p>本年2月、本県は未曾有の大雪に見舞われ雪崩が頻発した。太平洋側の雪は日本海側のものと結晶構造が顕著に異なり、かつ雪崩発生メカニズムも異なることが報告されている。そこで本研究では、本県を含めた太平洋側に特徴的な雪崩の発生メカニズムの解明と雪崩の発生を検知する観測機器の開発を目的としている。先ず、本年の大雪の際の本県の雪崩発生状況と地理的要因を把握し、続いて雪崩発生メカニズムを解明して、次に雪崩の予兆や前兆の検出と精査を行い、最終的に雪崩発生の検知観測機器を開発するという一連の研究の流れは科学的で分かりやすい。また、雪崩と雪の結晶構造との関連、さらに雪崩と気象条件との関連が詳細に解明されれば、その結果を防災、減災へ応用可能であり、本研究を実施する意義は大きい。</p> <p>しかし、研究内容は極めて広範で多岐に亘っている。特に雪崩は様々な気象条件や環境状態が複雑に絡んで生じるので、成果を普遍的に捉えるのは極めて至難のことと想像される。是非とも長期的視点に立って、本県の雪崩の特徴をしっかりと把握しつつ粘り強く本研究を進めてほしい。また、雪崩の発生には雪質はもちろんのこと、降雪下の土壌特性や植生構造の違いも大きく関係していると考えられるので、このような点にも留意しながら、雪崩の発生メカニズム解明の調査研究を実施してほしい。</p>		